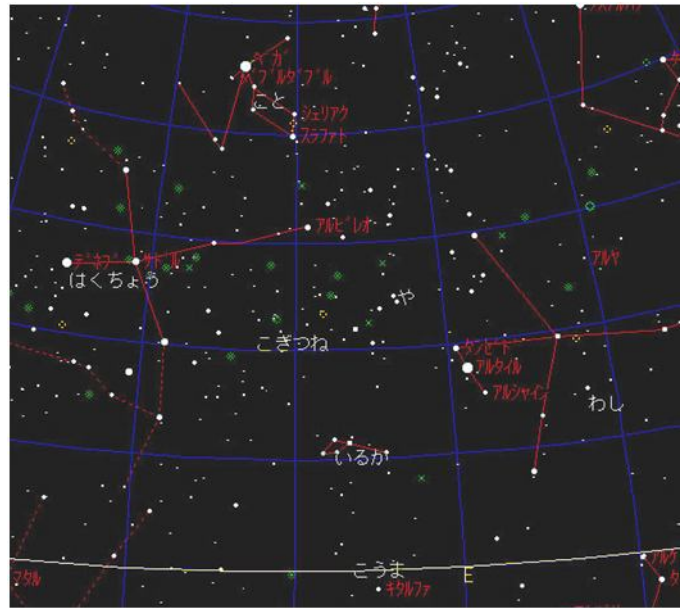


## 「織姫と彦星」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

明後日は七夕の日だ。どうしてこうも、一年で一番天気が悪そうな日を七夕に選んだのだろうか。とにかく七夕の夜は曇りか雨で、ほとんど星が見えた試しがない。織姫と彦星はこの夜にしか会えない・・・この物語が、「織姫（こと座のベガ）と彦星（わし座のアルタイル）は7月7日にしか見えない」という誤解を生み、多くの方はそう思っている。実際に子どもたちからは、「七夕の夜に雨が降ったら、来年まで見えないんですか？」という質問をよく受ける。

その心配はまったくない。どちらも星も、初夏から秋まで、日本ではずっと見え続けている。ついでに、はくちょう座のデネブも入れて、夏の大三角は、まさに夏休み中ずっと見える。東京でも間違いなく見える明るさなので、夏休みの課題によく選ばれる。



図は「7月7日 20時の東京の東の星空」である。

(” The sky” で計算、作図。) 織姫（ベガ）は約  $45^\circ$  彦星（アルタイル）は約  $20^\circ$  の高度に見える。いずれも一等星なので、この高度なら光害の多い東京でも、十分に観望可能だ。

織姫と彦星の実際の距離は、16 光年(約 150 兆 km)も離れている。大変な「遠距離恋愛」である。これはもう是非、子どもたちにも観望してもらいたい。



「織姫・彦星、そしてデネブと天の川」

固定撮影 / Nikon D40 / 北軽井沢 / C.Tanaka

